

令和7年度 事務事業マネジメントシート

1 事業概要		段階： 令和6年度実施事業に係る事務事業評価				1900 農業実証・普及事業					農商工部	園芸畜産振興課
		中事業番号	756								所属コード	263000
政策体系		SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X 推進	意図（目的）	
大綱（取組）	I「産業・仕事の未来」	2.3	○	1-3		○					野菜・花きの実証試験や見本展示を行うとともに、生産技術の習得・向上のための講習会や長期研修を実施する。	
施策	3 農林業が盛んで、市民の身近な産業となるまち											

事業開始時周辺環境（背景）		現状周辺環境		今後周辺環境（予測）		住民意向分析	
食生活の変化に伴って米の消費が減少して生産調整期が長く続いており、将来的に水稲単一経営では農業所得の維持・向上が困難なことが予測され、野菜、花き、果樹、畜産などとの複合経営へと生産構造の転換が求められている。		世界的な農業情勢と国の農業政策に対応した効率のかつ戦略的農業への改善が求められるとともに、農業経営の安定化のために複合経営の推進が求められている。		国内外の農業を取り巻く環境や従事者の高齢化、就農者の減少の中で農業所得の維持・向上を図るために、本市主幹作物の水稲はもとより、園芸作物の振興が必要不可欠である。 また、生産の効率化や消費動向を踏まえた品目・品種の導入が必要であり、さらには気候変動への対応が求められる。		講習会等の参加者は多く、また、参加後アンケートでは満足度は高いため、講習会等の開催ニーズは高いと考えられる。	

2 事業進捗等（指標等推移）			まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名	指標名	単位	2022年度（令和4年度）		2023年度（令和5年度）		2024年度（令和6年度）		2025年度（令和7年度）		2026年度（令和8年度）		2027年度		中間指標	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	2021年度	最終指標
対象指標	主要園芸作物生産戸数	戸		988		988		988								
活動指標①	野菜、花きの実証試験・見本展示品目数	件	30	32	30	12	30	22	12		12		12	12		
活動指標②	講習会等数	種類	5	5	5	5	5	5	4		4		4	4		
活動指標③	講習会等受講・参加者数	人	144	174	144	199	156	241	173		173		173	173		
成果指標①	講習会等受講・参加者の作付品目数	件	8	12	8	8	8	8	8		8		8	8	8	8
成果指標②																
成果指標③																
単位コスト（総コストから算出）	実証試験・見本展示品目1件当たりのコスト	千円		807		2,173		1,632	1,942		1,942		1,942	1,942		
単位コスト（所要一般財源から算出）	実証試験・見本展示品目1件当たりのコスト	千円		807		2,173		1,632	1,942		1,942		1,942	1,942		
事業費		千円		2,958		3,300		4,050	3,300		3,300		3,300	3,300		
人件費		千円		22,860		22,779		28,590	20,000		20,000		20,000	20,000		
蔵出計（総事業費）		千円		25,818		26,079		32,640	23,300		23,300		23,300	23,300		
国・県支出金		千円		0		0		0	0		0		0	0		
市債		千円		0		0		0	0		0		0	0		
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円		0		0		0	0		0		0	0		
その他		千円		0		0		0	0		0		0	0		
一般財源等		千円		25,818		26,079		32,640	23,300		23,300		23,300	23,300		
蔵入計		千円		25,818		26,079		32,640	23,300		23,300		23,300	23,300		
		実計区分	評価結果	継続	継続	継続	継続	継続	継続							

活動指標分析結果		成果指標分析結果		総事業費（事業費・人件費）分析結果	
○野菜、花きの実証試験・見本展示品目数は、きゅうり、アスパラガス、トルコギキョウ等の主要品目を重点とした結果、22品目となった。 ○講習会等数は、育苗研修、園芸カレッジ等、5種類を開催し計画通りとなった。 ○講習会等受講・参加者数は、育苗研修118人、きゅうり栽培講習会など、生産者が多く注目度の高い品目での内容とした結果、計241人と計画より多くなった。		○講習会等受講・参加者の作付品目数は、トルコギキョウ、きゅうり、ブロッコリーなど 8品目となった。		【事業費】 ○ウクライナ情勢や円安の影響により、肥料や農業等の農業用資材の高騰等で事業費が増加した。	
				【人件費】 ○会計年度任用職員の給与改定により、人件費が増加した。	

3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価		
1 規模・方法の妥当性	3	
2 公平性	4	
3 効率性	3	
4 活動指標（活動達成度）	4	
5 成果指標（目的達成度）	4	

(2) 事業継続性評価		
代替事業（有）		
ニーズ（小）		ニーズ（大）

継続	一次評価コメント
野菜、花き等の園芸作物を振興し、生産性の高い農業の実現と農業経営の安定を図るため、農業者に対する生産技術の指導・支援を目的とした育苗研修や栽培指導講習会の開催、人材育成、有望作物の実証試験等を行い、一定の成果を上げている。 特に、育苗研修は、トルコギキョウなどの優良苗による産地の生産振興が図られており、農業者のニーズは高い。 今後においても園芸作物を振興する必要があることから、当該事業を継続する。	

5レシ	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス（会議レス）
	○				

気候変動対応	D X (デジタル市役所)	部局間協奏
○	○	

4 二次評価

(1) 事業手法評価		
1 規模・方法の妥当性	3	
2 公平性	4	
3 効率性	3	
4 活動指標（活動達成度）	4	
5 成果指標（目的達成度）	4	

(2) 事業継続性評価		
代替事業（有）		
ニーズ（小）		ニーズ（大）
代替事業（無）		

継続	二次評価コメント
講習会参加者数は増加傾向にあり、講習会の内容がニーズに合致していることが確認できる。野菜、花きの実証試験・見本展示品目数は計画未達成であるが、きゅうり、アスパラガス、トルコギキョウ等の主要品目を重点に選定した結果であり、受講者の意向に沿った講習会の運営が図られた。 農業経営者が安定した運営を実施していく上で、米依存型農業ではなく、野菜・花き等園芸主体の複合経営の普及は必要不可欠であるため、継続して事業を実施する。なお、社会情勢の変化により人件費及び事業費が増加しているため、効率的かつ効果的な事業手法を検討する必要がある。	

(参考) 令和6年度カイゼンのための行動計画	